

「灰の山に碗や皿をかくしたのは誰か」－立論①－

わたし側の立論

司会 それではルールに従って第4回ディベート討論会を始めます。最初に「わたし」側の立論を始めてください。時間は2分です。

佐藤（わ） 私たちが、灰の山に碗や皿を埋めておいたのは「わたし」だと主張する根拠は2つあります。その第1は、ルントウが親友だということ。第2は、ルントウが灰を欲しいと言ったことです。

まず、第1の根拠についてご説明します。「わたし」は久しぶりに故郷に帰ってきました。それは、単なる帰郷ではなく、異郷の地へ引っ越すためでした。その帰郷によって、少年時代の親友、そして現在の心の友であるルントウと20年ぶりに会ったのに、もう二度と会えなくなるかもしれないという思いから、できるだけのことをルントウにしてあげたいと思ったのです。その思いやりの心が、碗や皿を灰に埋める行動へと導いたのです。他の人が埋めたと考えるとどうでしょう。ヤンお婆さんはどうでしょう。本当に碗や皿を灰の山に埋めるなど危険な行動は起こさず、見つけたときそのまま持って帰ったのではないのでしょうか。ルントウはどうでしょう。碗や皿は、「わたし」の所持品です。いくら、ルントウの生活が貧しいからといって少年時代の所持品を盗むようなことはしません。シュイションとホンルはどうでしょう。シュイションとホンルはまだ10歳そこそこです。灰の山に碗や皿をかくして持っていこうなどという高度な考えなど思いつくはずがありません。

第2の根拠は、第1の根拠と同じようなことなので省略します。詳しくは、資料をご覧ください。以上の内容をもって、私たちの立論とさせていただきます。ありがとうございました。

司会 ありがとうございました。時間は1分53秒でした。では続いて、ルントウ側の立論を始めてください。時間は2分です。

ルントウ側の立論

今井（ル） 私たちが、ルントウが碗や皿を灰の中に埋めたと主張する根拠は2つあります。その第1は、生活が苦しいということで、第2は、一人で台所に入ったことがあるということです。

まず、第1の根拠についてご説明します。教科書からわかるように、ルントウは漁業や農業を営んで生計を立てていますが、それを売ると元が切れ、売らないと腐るばかりなので、この機会を利用して碗や皿を盗み、それを売って、少しでもお金が入るようにルントウはするでしょう。もし、これを、シュイションとホンルの立場で考えたらどうでしょう。ルントウは子どもだった頃、大人たちの事情を知らず「わたし」と仲良くしていました。それと同じに、シュイションとホンルも大人たちの事情は、よく知らないのではないかという問題が生じてしまいます。このことから、ヤンお婆さんと「わたし」は犯人ではないことがわかります。

次に、第2の根拠についてご説明します。137ページからわかるように、ルントウは一人で台所に行く機会があったため、誰にも見られず碗や皿を灰の中にかくすチャンスがあったはずですが、もし、これを、ヤンお婆さんの立場で考えるとどうなるでしょう。たとえ台所に入る機会があったとしても性格上、かくさないで持っていくのではないのでしょうか。次に、シュイションとホンルの立場で考えると、子どもは普通、台所では遊ばないので入る機会があったとしても入らないと思います。また、「わたし」の立場で考えるとどうでしょう。台所に入る機会はたくさんありましたが、137ページに「持って行かぬ物はみんなくれてやろう。」と書いてあり、そのあとで、「わたし」は特に何も言っていないことから、納得していることがわかります。それなのに、わざわざ灰の中にかくしたりしません。

以上の内容をもって、わたしたちの立論とさせていただきます。ありがとうございました。